

# 景観と環境を大切にし地域活性化



## 歴史遺産見直し

鶴岡市「外堀堰再生・保存の会」

佐藤 奈己

私が「外堀堰（とほりぜき）再生・保存の会」の事務局を担当したのは平成十四年六月からである。その月は、当会が発起人会を開き、七月の設立総会に向けて準備を進めていた時期に当る。

そもそもこの団体は、平成十三年六月鶴岡市が主催した「歩いて暮らせるまちづくり」の会合の「まちなか観光推進」分科会の中で、外堀堰の見直しが話題になったのが発端で、これを契機として「NPO庄内市民活動センター」が推進力となり、「グラウンドワーク山形」等の支援を受けながら外堀堰がある第三学区の各町内会の有志に働きかけて、歴史と景観と環境を大切にしていけるように暮らせる二十一世紀の地域づくりを目指した「外堀堰サロン」を立ち上げ、八回に及ぶ外堀堰を中心とした自由な話し合いの中から、まず外堀堰を広く市民から認知してもらおう事が先決とする機運が生まれ、当会の設立へと発展したものである。平成十四年七月、外堀堰再生・保存の会」がスタートする際の趣意書は次の

ように訴えている。

「江戸時代の外堀堰は、人々から生活用水としても使用されていたため、日々の生活と深く密着し欠くことのできない存在であったと推測されます。郷土資料館には、子供たちが外堀堰で遊んでいる様子が描かれた絵巻物が残っており、身近な存在としての外堀堰を証明する十分な証拠になると思います。しかし、外堀堰は環境的な面から見て今課題を抱えています。現在の外堀堰の状況を見ても、生活排水の流入、ごみの不法投棄等による水質汚染、悪臭が発生し、市民の方から好まれていない存在とは言えません。何か施策を練り、地域の環境・外堀の環境を見直すべき時期が来ているものと思います。また近年、日本各地で『歴史的遺産』を活用しながらまちづくりを行う市町村が増えてきました。この一連の動きの特色は、いわゆる冷凍保存型ではなく、それらを現代生活の中で積極的に生かしていることという事例が多いことです。活用された多くの歴史的遺産は、観光資源や地域住民の

誇りとなり、地域活性化の一助となっています。鶴岡市では、このような歴史的遺産の活用の動きが他地域に比べ、やや遅れていることを考慮すると、この活動は、先進的なものになると考えられます。」

ここで外堀堰について紹介すると元和八（一六三〇）年十月、酒井忠勝公が庄内の地に入部すると「茅屋根の粗末な御殿で、二の丸に七軒ばかりの侍屋敷がある」（大瀬欽哉著「城下町鶴岡」という状況の鶴ヶ岡城の築造と城下町の経営に着目し、約五十年を費やして城も城下町も整備されたと伝えられている。その際、新たに三の丸を造り、東を内川、西、北には堀、土塁を築いて城の防衛線としたもので、それが外堀堰である。資料によれば幅一・二・六メートル、深さ一・八メートルの堀と高さ三・六メートルの幅一・八メートルの土塁で囲んでいたという。それが現在では三面コンクリートの堰と変わり、土塁はほとんど失われている。さて、活動目的として、外堀堰の周辺の環境を整える 外堀堰の歴史と文化を発掘・

# Value Sight 歴史遺産見直し

創造する 地域のコミュニティを活発にする を挙げている。まず、外堀堰の環境整備に関しては、平成十四年九月五日、会員を軸とした建設業協会鶴岡田川支部青年部と建築士会のメンバーにより、その専門知識と経験を駆使しながら外堀堰の測量調査を実施した。翌月には第一回目的の「とんぼりクリーン作戦」を実施し三十二名が参加した。一輪車や鎌、軽トラックなどは地元建設会社から借り、ゴミ袋は市の環境衛生部より支給してもらい、地域住民・高校生ボランティアを含む、企業が協力してのグラウンドワーク手法で行なわれた。これからのまちづくりにはお互いがパートナーシップを組みながら協働して活動をする事が身近な地域問題の解決策と考える。住民も自ら汗を流し、自分たちの



保存会と町内会の有志で行った外堀の清掃活動

地域の環境を見直していく必要がある。第二回目は平成十五年の九月二十三日。前年より広範囲な区間を対象にしたクリーン作戦となった。

次に歴史と文化の発掘・創造についてはこれまで会報「とんぼり通信」を四号と臨時号を発行して来たが、その中には収集した史料を紹介するとともに、かつて若かりしころ外堀堰で遊んだ経験のある人たちから思い出話等を執筆していただいで発表している。また、地域コミュニティの活性化では市立病院の新築移転に際し不整形な土地が生じ、ここをポケットパークとして活用することとなり、十三年十一月に、市が広くワークショップへの参加を呼びかけたところ、市民約五十名が参加してくれた。このような経緯を経て計画を推進した結果、十五年八月に「とんぼり広場」構想として結実し、市民による市民のための公園づくりが成功した。そこで「とんぼり広場」竣工後の維持管理について、当会がコーディネートして、近隣三町内会と協力し四者で市から公園管理業務を受託し業務を行っている。

当会は、「NPO法人環境協働組織・グラウンドワーク庄内」との連携があり、優れた専門分野を持つ人の強みを生かし、測量調査、水質調査の指導や会のマネジメントのアドバイスを受けている。他団体との交流としては、平成十五年十一月二日に寒河江市の「水土里ネット寒河江川」による、「二の堰親水公園」のグラウンドワーク活動と、「山形五堰の流れを考える会」の取り組みを視察し、会の運営、個々人のかかわり方など大きなヒントを学んで帰ってきた。

今後の課題として、正会員八十三名（ほかに賛助会員三十三名）が会の活動にどれだけ多く参加できるか、参加のデザインを作っていくことが重要となってくる。清掃活動や外堀堰に関する史料の発掘作業を無理に押し付けるのではなく、個々人の積極的な意志で会の事業にかかわれるようさまざまなアイデアが必要だ。会と会員の相互成長があつてこそ外堀堰を本来の姿に近づけることが出来るだろう。会の活動を常にアナウンスし、多くの人が無理せず参加出来るように活動していると思っている。

また、外堀堰には水量の問題がある。かつての外堀堰は水量が豊富だったという。今は水源を失って、魚捕りや泳ぐことなどは昔話になっている。これから本格的に行政や土地改良区と話し合い、水源の確保を実現したい。その時には会独自で行った測量調査、水質調査が生きてくるであろう。一日でもいいから、大量に水を流すイベントを実現し、再生へのヒントを探り当てたいと願う。新たな外堀堰の文化を育てるために、かかわっている一人ひとりの力を存分に発揮する努力をしていきたい。

## 佐藤奈己(さとう・なおみ)

鶴岡市在住。  
外堀堰再生・保存の会の事務局担当。  
平成14年6月～平成15年5月日本財団「NPO支援センター強化プログラム」の一環で1年間NPOについて学び、市民行動にかかわる。同時に「外堀堰再生・保存の会」の事務局を担当する。  
事務局連絡先：  
〒997-0035 鶴岡市馬場町1-6  
庄内NPOセンター内  
TEL・FAX 0235-22-7905